

平成 30 年度 第 5 回 C O C 実施本部会議 議事録

平成 30 年 9 月 19 日 (水)

14 : 00 ~ 14 : 27

場所 : 本部大会議室

出席者 : 清水学長、齋藤教育開発センター長、橋本学生部長、大島研究開発推進センター長、森企画部長、山村学生支援部長、中井教務担当課長

※欠席 : 木村局長

【議 題】

1. CLL 活動、参加学生追加について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

継続する C L L 活動に、2 3 名の参加学生を追加する (事項書参照)。9 月 1 9 日時点で、延べ 1 8 1 名である。

第 4 回 (7 月 11 日) の実施本部会議にてお諮りした「子どもと家庭の応援団」は、灰谷先生を担当教員とし、明和町をはじめ伊勢志摩圏域の市町を中心に、子どもの居場所や親子交流の場等、保育・教育・福祉の各視点を持つ学生たちが、主体的に提案・提供していくことで、子どもと家庭の諸問題の解決手段のひとつとなることを目指す活動であり、基本的には、駒田先生 (教育学部)、土谷先生 (教育学部)、灰谷先生 (現代日本社会学部) ゼミで行うものである。

審議の結果、異議なく了解された。

2. 平成 3 1 年度以降 C O C 実施体制について

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より説明がなされた。

① 活動圏域の拡張について

文部科学省の補助事業で、3 市 5 町 (伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町) の連携自治体の範囲内で進めているが、これまでも、三重県、伊賀市、桑名市、尾鷲市ほか各市町から企画部地域連携推進室で取り扱い業務を行っている。

9 月に開催したシンポジウムのアンケート結果 p. 5 の問 8 で、「地域と関わる活動の範囲について」お聞きしたところ、「伊勢志摩圏域に特化すべき」との回答が 48% で、シンポジウム参加者の居住地が伊勢志摩圏域であったことも要因であろうと考える。

来年度からは、3 市 5 町に限ることをせず県内全域に活動範囲を拡大していきたい。

② 『伊勢志摩定住自立圏共生学』科目Ⅲ・Ⅳの株式会社三十三総研業務委託について

審議の結果、異議なく了解された。

【報 告】

1. COC 学修成果評価アンケート集計結果報告

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より資料集 vol.4 に基づき報告がなされた。

科目Ⅰについては p.121～128。

受講学生は 137 名。特に指標にしているのは、学修成果面の「理解できたか？」及び「他者に説明ができるか」である。8割が理解できたとの回答だが、平成 29 年度より下がっている。「他者に説明ができるか」についても昨年度より下がっている。

また科目Ⅳについては p.129～136。

株式会社三十三総研の伊藤専務に講義いただいているが、p.131「理解できたか？」との問いに、「よく理解できたがもっと知りたかった」というより意欲の高い回答が 25%であり、過去最高の数値となった。補足として、平成 28 年度の表記がないのは受講学生が少なかったためである。

また、「他者に説明ができるか」との問いに、「確実に説明できる」と 13.5%が回答。25%が理解できたと答えているにもかかわらず説明できるのは半数の 13.5%。ここに授業改善のひとつのポイントであると考えている。

2. 第 4 回シンポジウム開催報告

清水学長の求めに応じ、齋藤教育開発センター長より配付資料に基づき報告がなされた。

9月9日（日）に621教室にて開催した。参加者45名。最終年度のテーマは「失敗」とし、進行・登壇・記録を全て本学学生が行った。パネル交流会でも展示したCLL活動の中間報告書も資料として付する。

3. その他

特記事項なし

平成 30 年度 第 6 回 COC 実施本部会議は、平成 30 年 10 月 31 日（水）に本部大会議室で開催されることが確認された。